

令和7年度 第1回遠軽地区地域公共交通活性化協議会 議事

日時場所	令和7年6月2日 月曜日 10時00分 遠軽町役場 3階大会議室
1 開会	
事務局（遠軽町企画課長） 開会の挨拶	
2 会長挨拶（遠軽町長）	
皆様お忙しい中、お集まりいただきありがとうございます。 公共交通を巡る課題は非常に大きくなってきています。先日、名寄本線代替バスの関係で紋別市でも会議を行いました。JRについても名寄本線が無くなって、バス転換となりましたが、乗客減少などによる財政的な影響で細くならざるを得ない厳しい状況となっています。タクシーについても遠軽町で2社あったものが1社となってしまう、そこでもなかなか運転手が集まらない状況です。 交通、医療、年金に関する問題はすべて人口減少による影響で発生した問題になります。誰が考えたって人口減少はまだまだ進みます。遠軽町は合併してから20周年になる年ですが、財政的な面で合併したというのは1つの大きな要素ではありますが、人口減少についてもこれも合併した大きな要因でありました。だけれども地方はどんどん縮小して参ります。都市も人口は減るけども、大きく減少するのは地方になっていきます。その中でも、今回の米の話も出てきて、特に我々の北海道は広域な面積を持っている中で人口が少ないから、食料安全保障の面で食料増産できる場所ではありますが、その反面、人口が少なく、広大な面積を持っているということで、交通の面でも非常に課題が多く出てくるという堂々巡りをずっと続けてきております。 町内のことについては、我々の仕事ですが、広域の問題については北海道庁で取り組んでいただいております。高速道路やJRは国がしっかりと関与していかないといけないものだとは私は思っております。 そういった中で、本日は3町の公共交通活性化協議会のご審議をお願い申し上げまして、挨拶に代えさせていただきます。	
委員の紹介	
委員の紹介及び任期について事務局説明（遠軽町企画課長） 17名の委員中15名出席で会議が成立していることを報告。	
3 議事	
事務局説明（各町担当） 【報告第1号】 令和6年度遠軽地区地域公共交通活性化協議会事業報告について ・遠軽地区地域公共交通活性化協議会を2回開催し、遠軽地区地域公共交通計画に基づく事業の実施や、地域公共交通計画（地域内フィーダー系統補助金）の認定につ	

いて報告。

承認

【報告第2号】令和6年度遠軽地区地域公共交通活性化協議会決算報告について

- ・令和6年度収支決算書について報告。

承認

【報告第3号】令和6年度遠軽地区地域公共交通活性化協議会会計監査報告について

- ・令和6年度会計監査結果について報告。（監査員：伊藤委員）

承認

【議案第1号】令和7年度遠軽地区地域公共交通活性化協議会予算（案）について

- ・令和6年度予算（案）について報告。

可決

【議案第2号】令和8事業年度 地域公共交通計画認定申請について

- ・地域内フィーダー系統補助確保維持国庫補助金及び車両減価償却費国庫補助金の概要について説明。
- ・今後のスケジュール及び各町の補助上限額について説明。
- ・地域公共交通計画認定申請書について説明。

【議案第2号質疑】

高松委員 佐呂間町で今回バスを購入するとのことであるが、既にどのようなバスを購入する予定が決まっていれば教えてください。

事務局 今までのバスと同型のバスになります。

高松委員 遠軽町の路線バスの再編について、ある程度再編をする路線は具体的に決まっているのでしょうか。

事務局 遠軽地区地域公共交通計画の添付資料に路線を掲載しております。

高松委員 再編するにあたって令和8事業年度地域公共交通計画認定申請を後日変更するとの話がありましたが、併せて町であれば自家用有償旅客の手続き、バス事業者であれば道路運送法に係る手続きがありますので、忘れずに対応いただければと思います。

事務局 北見バス等と調整のうえ、対応します。

可決

【議案第3号】遠軽町・湧別町・紋別市方面 広域バス路線再編及び共同経営計画策定について

- ・北海道オホーツク総合振興局 阿部 地域政策課長より遠軽紋別間のバス路線再編について資料１及び資料２を用いて説明。

可決

４ 意見交換

湧別町 刈田町長

- ・湧別町の現状として今年の４月から上湧別地区の４つの小学校と１つの中学校が義務教育学校となり、１つの学校になりました。中湧別小学校と上湧別小学校の児童を義務教育学校に通ってもらうため、３台のスクールバスを増設して運行しております。１～４年生までをスクールバスで通ってもらっており、５～９年生は民間バスを活用させていただいて、今、登下校を行っております。朝のラッシュの時間帯については座れないくらい混むとの苦情も届いております。そのうち慣れてきて苦情も減ってくるだろうと考えております。
- ・昨年から佐呂間町と湧別町を結ぶ路線も昨年６月から運行開始となりました。昨年１年間で７２人活用いただいたとのことであります。火曜日と木曜日に予約して湧別から佐呂間まで行って、佐呂間からは佐呂間のバスに乗って北見の日赤まで行けるようになりました。今年の４月から夕方の便の第３便も運行開始となったので、もう少し活用する人も増えていくと考えております。これによって北見で透析を行って当日帰ってくるということも可能になりました。
- ・旧名寄本線の代替バスについても、湧別が中継点となっていますが、お互いwinwinの関係性で継続的に運行していただけるような形をとっていければと考えております。

佐呂間町 武田町長

- ・この協議会の一つの成果として昨年から中湧別・佐呂間線を予約制で運行を開始しました。どれくらいの利用者がいるか不安があったけども、７２人の利用という実績もあることを聞いて、これは一つの協議会の成果だと思います。
- ・北見方面は火・木曜日、遠軽方面は月・水・金曜日運行し、１つのマイクロバスで確実に運行させています。以前から連日両方向へバスを運行してほしいとの要望がありまして、町で予算をとってバスを購入することも可能ではありますが、利用者が減少してきていることや運転手の確保の問題があります。
- ・昔はふれあいバス北見線は佐呂間のバスターミナルを出発して、若佐で満員になって、追いかけてもう１台ワゴン車を運行した時代もありましたが、やはりコロナ後は利用者が減ってきております。この時期に病院でも対策として１か月に１回通院のところ２か月に１回としたことによってバスの利用者が減ってきているということもあります。
- ・遠軽の人が脳外科を中心とする北見の病院へ通院するとした場合、公共の交通機関

であれば留辺蘂回り（JR）で行く必要があります。しかし北見駅までしか行かないので、その点、佐呂間のふれあいバスは北見の日赤病院前まで運行します。

- ・お年寄りのかたで、これまでは自分で運転して北見の病院へ行っていた人も、今後は北見の町中を運転することや、北見の町中で駐車することも難しくなってきます。佐呂間の若佐を核として、遠軽から若佐までは運転してもらって、若佐からバスで北見の病院に通ってもらうこともあり得ます。若佐には「町の駅若佐」というNPO法人の建物があり、今は休止しているが、ここをうまく活用すればバスの待合所にもなり、周辺には町有地もあるため、駐車場として活用ができる場所もあります。
- ・こういった話を積み上げていくと、遠軽にも湧別にも安全で確実な交通体制ができます。地域のお話を聞くということは、地域のためにこういった予算を取って整備すればよいかの一つの指標となるため、今後もこの協議会で活発な議論があって発展していくことが、将来的にこの地域が存続していく形にもなるんじゃないかと考えております。もっともっとご意見をいただきたいと思ひますし、それに対して私たちも地域づくりを考えていきたいと考えております。

遠軽町 佐々木町長

- ・紋別～遠軽の路線について、オホーツク総合振興局で調整していただいている点、国のほうでフィーダー路線に対して財政支援していただく点、感謝申し上げたい。
- ・私も職員上がりの町長なので、いろいろと技術的なやり方というのはこれまでもやってきているが、やはり結局は国家の交通法であるとか、北海道はどうするべきかなどの大きな観点から立った柱があった上で進むべきでないかなと考えております。いろんな計画の中ではありますが、認識されていないのであれば、政治的に動きません。
- ・国の補助等の地方への点滴はたくさんされてきているが、JRの問題を含めた動脈をバツバツと切られた中で点滴をいくら打たれても効果はありません。その結果、地方が今このようになってしまっていると思ひます。ここをしっかりと国として、北海道として強い柱を打ち出した上で、国家の交通体系はこうなんだと、北海道の食料一次産業における役割を考えたら、北海道の交通体系はこうなんだというものが出た上で、取り組んでももらわないといけないと思ひます。
- ・最近感じるのは、東京の都心の人や、昔の戦後の復興に寄与した太平洋ベルト地帯の人たちの考えは我々と全く違ひます。北海道でも札幌の人や札幌近郊の人と我々は考えが全く違ひます。このぐらい差ができてしまっている中で、国として北海道で太い柱を作っていく指標がないと、手抜き論議ばかりやって、ずっとこのまま進んでいくんではないかなということを危惧しております。

為国アドバイザー

- ・遠軽から紋別に向かう路線がうまく整理できて良かったなと思っております。概要版を見ると利便増進計画を作るということですが、オホーツク総合振興局と北見運輸支局に確認しておいていただきたい点があります。利便増進計画は５年間までの計画を作ることができます、ただし、そのためにはオホーツクの広域の交通計画を延長しておかないといけません。利便増進計画を作ると例えばフィーダー補助だと５年間は上限が撤廃されますが、遠軽紋別間は地域幹線系統になってきますので、このあたりの補助上限について確認しておいたほうが良いと思います。
- ・現状のオホーツク広域の地域公共交通計画で行くと３年分しか出ません。オホーツクの協議会で期間を延ばしてもらって、５年間たっぷり利便してもらおうという風にしてもらえるとありがたいなと感じがします。
- ・遠軽町で利便増進計画を作れば、予算のところで先ほど遠軽町であれば４７０万上限とのことでありましたが、１０００万を超えるような額を国から出してもらえないはずで。まずはオホーツク総合振興局を中心となって利便増進計画に着手してもらえてることは大変ありがたい。
- ・先ほどオホーツク総合振興局阿部地域政策課長も言っていましたが、遠軽紋別間の路線に係る共同経営をやることが決まったのが道内初であります。ほかの町でも検討しており私はお手伝いをさせていただいていますがなかなか難しい状況です。
- ・湧別から佐呂間に運行してるバスも、早くから若佐を拠点にしていこうという話を武田町長ともよく話してましたけども、非常に良い形で今は進んでいると思います。さらに今後どうするかを考えていかないと継続は難しいと考えています。
- ・高規格道路が整備されてきていますので、そうすると自家用車で遠くまで移動される方が多いかもしれません。逆に言えばオホーツク広域、あるいはその先ぐらいまでは、自動車の運転が厳しい年配の方が多くなっている。その方たちに公共機関を使ってもらえるように次のステップを考えていくのも良いかなと思います。

5 その他

特になし

6 閉会